

産業構造審議会保安・消費生活用製品安全分科会火薬小委員会
第9回特則検討ワーキンググループ
議事要旨

日時：令和元年6月26日（水曜日）14時00分～17時00分
場所：経済産業省 別館2階227共用会議室

出席者

新井委員、飯田委員、熊崎委員、畑中委員、松尾委員、三宅委員

議題

- (1) 製造施設内の運搬車に係る特則承認について
- (2) 火薬庫の最大貯蔵量等に係る特則承認について
- (3) その他

議事概要

- (1) 製造施設内の運搬車に係る特則承認について

(委員)

今後使用予定の鉛蓄電池の耐用年数はどの程度か。

(説明者)

使用頻度により変わるが、だいたい7～8年。

(委員)

バッテリーの数が増えることで、短絡、スパーク等のリスクが増えることが懸念されるが、それを防ぐためのメンテナンス等は何か考えているか。

(説明者)

現有車では月1回メンテナンスし、劣化しそうな部品は交換している。これまで問題は発生しておらず、導入予定車も同じ対応を予定している。

(委員)

導入予定車の駐車場所の高さはどうなっているか。

(説明者)

駐車場所は高台にある。昨年度の災害の際も浸水被害はでていない。

(委員)

横転の可能性について、限界速度の検証は平地を前提として算出しているのか。

(説明者)

平地を前提としている。傾斜は非常に緩やかであり、平地での計算値が適用できる程度。

(委員)

自然災害が発生した場合の対応如何。例えば運搬中に突発的な強風が吹いた場合はどうするか。

(説明者)

災害防止の基準に基づいて対応。運搬中に突発的な強風が吹いた場合は、最寄りの安全な場所に引き戻す等の対応になると思うが、今後検討していきたい。

(委員)

運搬中は、運転手以外に人がついているか。

(説明者)

運転手以外には、車両の前に一人いて、車両が通ることを周囲に伝えながら移動している。ブザーもついている。

(2) 火薬庫の最大貯蔵量等に係る特則承認について

(委員)

「FAIL」の結果が出ているスロークックオフ試験を外部火災の評価に使用していない点について伺いたい。

(説明者)

スロークックオフ試験は火薬庫内部の温度を少しずつ上げるものであり、火薬庫の外部火災で発生する状況ではない。

(委員)

SRB-AもSRB-3も、貯蔵時に点火のための信号を送る機器がついていないという理解で良いか。

(説明者)

そのとおり。

(委員)

LSC(V型成型爆薬)や分離機構の点火系統はどうなっているか。

(説明者)

いずれも、貯蔵時には点火のための信号を送る機器はない。

(委員)

組成に関して燃焼触媒の割合はどの程度か。組成は変わらないが、過塩素酸アンモニウム(AP)やアルミの結晶形態を変えたとかはないか。

(説明者)

燃焼触媒は数%程度を含んでいる。過塩素酸アンモニウム（AP）やアルミの結晶形態についても同じものを使っている。

（3）その他

特になし。

お問合せ先

産業保安グループ 鉾山・火薬類監理官付

電話：03-3501-1870

FAX：03-3501-6565